



## 巻頭言 国宝薬師寺東塔&映画「鬼に訊け」に想う 塾長 釜中 明

1300年前の創建当時から唯一現存する木造建築物、国宝薬師寺東塔が昨年から10年計画で解体修理中です。金堂と二基の塔を備えて築かれた薬師寺は「薬師寺式」と呼ばれる白鳳伽藍です。残念な事に相対する西塔は、500年前戦火で焼失しましたが昭和56年にお写経勸進により金堂と共に再建されました。当時の高田好胤管主が100万巻写経勸進の先頭に立たれていた時、私も2度お願いしました。

東塔の特徴は6枚の屋根が見えますが三重の塔です。上から数えた偶数階に雨風から軒先の木組みを守護する為に「裳階」(もこし)と呼ぶ屋根があり、塔の上層部には水煙が配されています。

7月10日、ご縁があって東塔を内覧することが叶いました。周囲を7層の作業台で囲い、すっぽり東塔が覆われています。最上階まで上りますと約30mあり相輪と同じ高さです。相輪の頂上の水煙が、作業台に取り外されており眼前で見ることが出来ました。透かし彫りの天女が横笛を吹き艶やかに舞っています。水煙は名が示す如く、ここが水面で火を出さないという意味だそうです。遙か1300年の時空を越えて天平人の祈りの心が伝わり感動を覚えました。

さて工事は、8月から2万枚の瓦を全て作業台に下ろす作業が始まりました。次に躯体を順次解体し横の作業台に並べられます。1300年間風雪に耐えた建築部材は、7割が再利用され残りの3割に新しい木材が使用される見込だそうです。木の生命力耐久力に感嘆します。

映画「鬼に訊け」 宮大工西岡常一棟梁の遺言  
宮大工西岡常一氏のドキュメンタリー映画を今春鑑賞しました。「鬼」と称せられ法隆寺の大修理、薬師寺の伽藍復興に一生を捧げた匠の生涯です。

「そんなことをしたら木が泣きよります」「千年の木には千年の命があります」「建てるからには建物の命を第一に考えなければならぬわけです。風雪に耐えて建つ、それが建築の本来の姿やないですか。木は大自然が育てたいのちです。そのいのちを建物に生かす。それが宮大工の務めです」と棟梁はいう。

「木は鉄を凌駕する」といい、速さと量だけを競う模倣だけの現在の技術とは根本的に異なる叡智と、自然への畏敬の念が厳しく伝わってきます。千年生きる建物には、千年生きた檜が必要であり、木のいのちを繋いでいく技術が必要だという。復興工事の最中、危惧していた日本での用材の調達が困難となり樹齢千年以上の檜を求めて台湾に行く事になる。昭和45年頃私も台湾檜を買付に渡台していた時、一山ごと買うということで現地では大きなニュースでした。

西岡棟梁が千年の時間を想うのは、現代文明に対する反論であり、現代の建築物や関与者に対する厳しい苦言であり警鐘だと受けとめました。

多くの事をこの映画に残してくれた棟梁に感謝です。同じ奈良県人として偉大なる大先達に敬意を表して、映画「鬼に訊け」の上映会を開催します。 合掌

特別企画 「鬼に訊け」上映&「トークセッション」  
当塾は今秋9周年を迎えました。お陰さまで塾生も500名が卒業しました。多くの皆様のお力添えに感謝申します。そこで、特別企画として「宮大工西岡常一棟梁の遺言」～千年先のいのちを繋ぐ～ と題して映画「鬼に訊け」上映&「トークセッション」を開催します。詳細は裏表紙をご覧くださいませ。



薬師寺 東塔 金堂 西塔

## 【 省エネ住宅 】

サポーター 胡桃-KURUMI-設計 一級建築士 木津田 秀雄

### エネルギーを考える

2011年の原発事故以降、住宅で使用するエネルギーに対する関心が高まってきています。いい家塾では「省エネ」についての講義を2010年の13期より取り入れました。

ところで住宅でのエネルギーは、どこで一番使われているか御存知でしょうか？真っ先に出てくるのは「エアコンによる冷房」です。冷房をがまんしているから「わが家は省エネだわ」と思っている方も多いようですが、実は年間のエネルギー使用量のうち、冷房に使用されるエネルギーは5%程度なのです（もちろんエアコンを使わないほうが省エネである事は間違いありません）。

### 何にエネルギーを使っているのか

では、住宅では、どこにエネルギーを使っているのでしょうか。1番多いのは給湯です。お湯は冬だけでなく夏場も使っており、年間を通じて使用するために多くのエネルギーを使うこととなります。2番目は家電（照明は除く）です。家電の中でも多くのエネルギーを使うのは、これも夏も冬も動いている冷蔵庫です。

他にもテレビや暖房便座などが多くのエネルギーを使用しています。3番は暖房です。暖房は冬ですが、ほぼ一日中使用していることから使用量が大きくなります。

夏にエアコンを使っても35度の外気温を28度にするのに、その差は7度ですが、冬に外気温が5度の時に室温を20度にするにも倍の15度の差をエネルギーにより埋め合わせをしないとイケません。その他には、照明、換気、調理、冷房などにエネルギーが使用されています。

### 省エネ住宅の基本

省エネ住宅をつくるには、上記の内訳を良く考えておく必要があります給湯や家電については、建物の形状などによる工夫で省エネ化するのは難しいですが、冷暖房については建物の形状などが大切な要素になります。

建物から熱が逃げないようにする断熱が大切ですが、その他にも漏気と呼ばれる隙間を無くすることも大切です。断熱性

能は断熱材だけでなく、窓ガラスやサッシの性能にも大きく左右されます。また冬季に太陽熱がしっかりと室内に入るように大きな開口を南側に設けることも暖房費の軽減に役立ちます。逆に夏場にきちんと庇などで影をつくり冷房エネルギーを減らすことも大切です。

### 機械によるもの

給湯エネルギーを減らすには、太陽熱温水器が一番です。夏場であれば、4人家族でもガス代が不要になります。冬にもある程度暖まった水を沸かすことになるので効率が良くなります。

家電の買い替えも大切です。古い冷蔵庫を買い替えただけで電気代が激減したという話しは良く聞きます。また暖房便座なども最近の機種は使用する直前に暖めるというものも出てきています。暖房にはペレットストーブなどによるとさらにエネルギーの軽減を図ることができます。



ペレットストーブ

### エネルギーの適材適所

生活に欠かせないエネルギーですが、多くは電気かガスになります。電気を直接熱に替える電気ヒーターや暖房便座、電気毛布等は最もエネルギー効率が悪いものです。同じ電気でもエアコンは、投入したエネルギーの数倍のエネルギーを生み出すことができます。またガスでできる調理や給湯は、基本的にガスでまかなう方が、深夜電力が安くない時代には有利であることは間違いありません。

原発事故からエネルギー危機が問題になりました。対策としてエネルギーをつかう家からつくる家へという時代になってきました。いい家塾の家は高断熱の本格木造住宅です。さらに使うエネルギーを自家でつくるシステムを装備して自給自足型省エネ住宅を実現しています。



エアコンゼロの家：緑のカーテンで日差しを遮る



# 「構造見学会」&「完成見学会」のご案内

サポーター アトリエ2馬力 一級建築士 吉田 公彦

## 【14期生 H邸 都市部の木造庫裏】

### 初の庫裏

「庫裏(くり)」とはお寺の住職やその家族が住む場所を言います。つまりは住宅建築ですが「住職の(今回は副住職ご家族)家」は当塾初。勿論、いい家塾プロデュースならではのこだわりの庫裏が完成しました。

### 地縁・仏縁・施工縁!

今回の建物はお寺の境内(敷地内)に計画されました。施工はサポーターの岩鶴工務店にお願いすると早い段階で決まっていたのですが、現地調査を進める内に驚きの偶然が見えてきました。それは40年前にこのお寺の本堂と庫裏を施工したのが何と「岩鶴工務店」。現岩鶴社長のお父様の時代の話です。関係者全員の驚きと岩鶴さんの冷や汗の中、計画は進んで行きました。

### 商業地域で防火地域・・・なのに木の家!?

周辺には超高層のオフィスビルやマンションが建ち並ぶ都心の一角。火災が及ばない様な建築的措置が法的に求められます。その中で、それでも木の生きる家を作ろうということで色々な工夫が生まれました。例えば、特徴的な玄関の木の格子戸の奥には網入りガラスの防火戸仕様のアルミサッシが控えている、とか大黒柱は「燃え代(もえしろ)設計」に対応出来る断面を確保して無垢の木を露わす等々・・・。

### コストを抑えてシンプルに

感性も生活感覚も若々しいご家族のイメージに引かれて、外観も片流れ屋根で黒っぽいシンプルな形状とその中に木が生きるデザインが実現、また、内部も細かく部屋割りをせず吹抜もある大らかな空間の中に現代和のテイストとしました。延床の坪数以上の大きな空間を感じていただければと思います。

### 梶原の大黒柱と共に・・・

家族みんなで参加して切り倒した杉の大黒柱は玄関・キッチン・リビング・2階書斎を通り、正に家族を繋ぎます。この大黒柱に見守られ、いつまでも家族に愛される家であり続けて欲しいと願っています。

日時：2012年9月17日(月・祝) 13:00  
(完成見学会開始 13:15)  
集合：地下鉄 西中島南方駅 南改札出口



(伐採祈願祭で大黒柱用材に斧入れ)

#### 【スタッフ】

監修：いい家塾 塾長 釜中 明  
設計・監理：アトリエ2馬力 一級建築士 吉田 公彦  
建築施工：(株)岩鶴工務店 代表 岩鶴 祥司  
CFZ断熱工事：(株)ゼットテクニカ 代表 山本 順三  
FSC木材提供：高知県梶原町森林組合

## 【8期生 M邸 東成区 二世帯三世代の大きな家】

### ディープ大阪 二世帯三世代の大きな家

歴史ある商店街で薬局を営まれるご家族の2世帯住宅です。間口が狭く奥行が深いことや店舗との動線の中から、この家ならではの形状が出てきました。即ち、道路に近い側はまち並みにも配慮した親世帯の平屋。奥は、敷地の広がりも利用して子世帯用の2階建てです。素材、構造、断熱、依頼先と、まさに「いい家塾」の目ざす住まいづくりを、時間を掛けて家族で学び、研究し、こだわったどりついた家なのです。

### 大切な地盤・基礎

大阪市内は一部を除いて地盤が弱い所が多いのです。この土地もご他間に漏れず、軟弱地盤でした。検討の結果、10m前後の深さまで杭を打ち、地耐力と摩擦力の両方で建物を支持する方法としました。そしてその杭の上に厚い耐圧盤を持つ「ベタ基礎」を設けて上部構造をしっかりと支えます。

### 伐採祈願の木

今年2月に高知県梶原町の深い山で伐採祈願をして切ってもらった、感動の残る太い杉の木は玄関に座る8寸角(24cm×24cm)の大黒柱として家族を見守ることになります。経験しないと伝わりにくいですが、20m以上ある大木に斧を入れて、切り倒す瞬間に立ち会える、伐採祈願祭の感動は、特に自分の家の木となれば、何物にも代え難い素晴らしい体験として心にきざまれたと思います。

### いろいろな架構

平屋と2階建ての違いを見比べられる事。元々建っていた家の古材を使った太い丸太梁、2階口フト利用の為の昇り梁、吹き抜け空間のための架構、坪庭、テラスバルコニー等、完成したら隠れてしまって、どんな工夫があるか、語られる事も見る事もなくなる部分がいっぱいです。大きめの家は見所もたつぷりの構造見学会にぜひご参加下さい。

日時：2012年10月14日(日) 13:00  
(構造見学会開始 13:20)  
集合：地下鉄今里駅 7番出口



(棟木に記された関係者、良い記念になります)

#### 【スタッフ】

監修：いい家塾 塾長 釜中 明  
設計・監理：アトリエ2馬力 一級建築士 吉田 公彦  
建築施工：(株)山本博工務店 代表 山本 啓二  
CFZ断熱工事：(株)ゼットテクニカ 代表 山本 順三  
FSC木材提供：高知県梶原町森林組合

※見学会の参加には事前申し込みが必要です。参加される方は<<いい家塾>>事務局までご連絡下さい。参加費は1家族1,000円です。

## 受講の動機と感想

私といい家塾との出会いは、塾長の著書「いい家づくりの教科書」の購読でした。現在は、両親と同居しているので自分で建てた家には住んでいませんが、両親の建てた家が地震などの影響で、壁のあちこちにひびが入っていたり、基礎がしっかりしていないせいで床の上にビー玉を転がすと傾いた方向にコロコロと転がって行ったり、冬には隙間風が入ってきてとても寒く、光熱費がとても高かったりと、いつか建て替えるとすれば、その前にいい家とはどんな家なのかきちっと知った上で、後悔のないように家づくりをしたいなと本屋さんで手に取ったのがこの「いい家づくりの教科書」だったのです。そして本を読み、いい家塾にも参加させていただくようになって講師の方々の話を聞いていくと、私の知りたかったことはこういうことだったんだ！と、とてもうれしくなりました。家の地盤や基礎の話から、自然エネルギーを使った省エネ住宅とは何か、シロアリについてなど、その他ありとあらゆる住宅についての知識を盛りだくさんに教えていただけ、毎回とても楽しく受講させていただいています。

今現在受講中ですが、講義を受けていてとても共感のできたことはまず、丈夫で長持ちする家を建てること。戦後建てられた家の耐久年数は30年以下だそうです。一生の買い物として建てた家を30年も経たないうちに建て替えなければならないなんて、なんと「もったいない」ことでしょう。次に、自然の恵みを最大限に活かし環境に配慮した家を造ること。使い捨ての文化や、環境破壊を早急に見直さなければならない今、衣食住の住の部分も大きく見直さなければならないと思うのです。そして、自然の恵みを最大限に活かして建てた家は、環境にやさしいのはもちろん、私たち自身にもとてもやさしいのではないのでしょうか。耐久性の問題から地震への不安があり、有害な化学製品を使い続けた結果シックハウスの問題などが起きていますが、そういった問題も解決することでしょう。

私たちもこの地球の自然の一部として自然の理にそって家を建てれば、そして自分がその知識をもってワクワクと将来の家づくりをすれば、きっと建てた家も喜んで、私たちに住み心地のいい、住んでいて幸せになる場を提供してくれるのではないのでしょうか。



### 特別企画 「宮大工西岡常一棟梁の遺言」～千年先のいのちをつなぐ～

巻頭言で紹介したイベントの詳細です。西岡常一棟梁のドキュメンタリー映画「鬼に訊け」上映後、豪華なゲストをお招きし「トークセッション」を開催します。パネリストは、薬師寺の長老 安田 暎胤師、本映画の監督 山崎 佑次氏、塾長 釜中 明、コーディネーターは大阪市立大学大学院 准教授 小池 志保子氏。映画製作の裏話や、西岡棟梁の人柄や交流エピソード、そしてこれから必要とされる建物とはどのようなものなのかを考えます。席に限りがありますのでどうぞお早めにお申し込み下さい。

会場：大阪市立 住まい情報センター 3階ホール 地下鉄「天神橋筋六丁目」駅直結

大阪市北区天神橋六丁目4-20

日時：平成24年10月28日(日) 13:00～16:30 (12:30 受付開始)

入場料：1,000円

出演者：パネリスト／安田 暎胤師、山崎 佑次氏、釜中 明

コーディネーター／小池 志保子氏

申込み：必要事項(氏名、住所、参加人数、連絡先)を下記事務局までご連絡ください。

開催にあたり多数の企業、団体様から協賛をいただいております。感謝申し上げます。



#### 編集後記

11月8日は「いい家の日」と決めて、毎年様々な企画を行ってきた。今年も多くの方のご協力で豪華な企画となったことをこの場をかりてお礼申し上げます。大震災からもうすぐ2年。被災地では徐々に復興が進み、新しい建物が出来上がっている。被災者の方のためにも一日でも早い復興が望まれるが、新しく造る建物は安易に購入したりするのではなく、しっかりと勉強して後悔しない家を建ててほしい。西岡棟梁は「千年の檜には千年のいのちがある」と教えてくれました。これから建てる家は、せめて伐採した木と同じぐらいその土地に根を生やし、災害の記憶とともに後世に受け継いでいただきたい。【編集人】

NPO：後悔しない家造りネットワーク《いい家塾》

発行人：釜中 明 編集人：釜中 悠至

本部・事務局：大阪市天王寺区生玉寺町 1-13-6F Tel：06(6773)3423 Fax：06(6773)3420

URL：http://e-iejuku.jp E-mail：info@e-iejuku.jp